大野市快適環境づくり計画（平成元年度）

□計画の目的と位置づけ

目　　的：	環境特性や快適な環境に対する市民の要請を踏まえた上で、大野市が目指すべき快適な環境を備えた都市像を示すとともに、その実現に向けた具体的方策についての検討を行うことを目的とします。
位置づけ：	大野市快適環境づくり計画は、第２次大野市総合計画を踏まえるとともに、現在策定中である第３次大野市総合計画（基本構想）や福井県アメニティ・マスタープランなどとの整合性を図った上で、大野市における環境行政の指針を示す計画として位置づけられます。

□　計画の構成

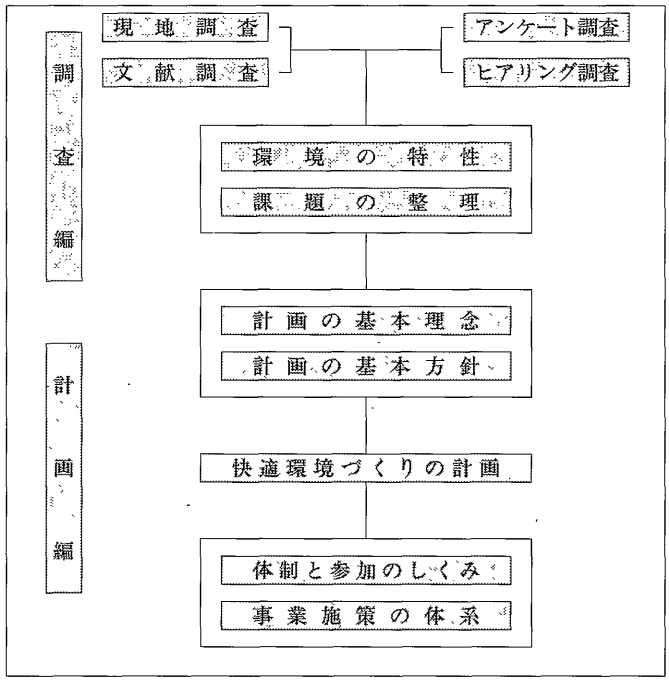
序　章　計画づくりへの取り組み
- ◆ 計画づくりの背景
- ◆ 計画の目的と位置づけ
- ◆ 計画の策定フロー
- ◆ 大野市の概要

第１章　私たちの大野市を見る、考える
- １－１　環境の特性
- １－２　課題の整理

第２章　将来の大野市を描く
- ２－１　計画の基本理念
- ２－２　計画の基本方針

第３章　みんなで実践していく
- ３－１　快適環境づくりの施策体系
- ３－２　快適環境づくり計画
- ３－３　体制と参加のしくみ
- ３－４　事業施策の体系

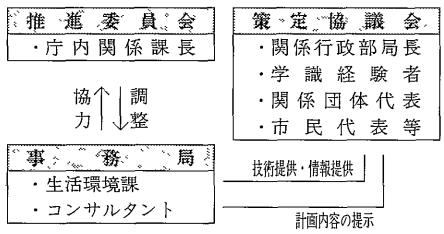
≪資　　料　　編≫
- ◆ 市民アンケート調査の概要
- ◆ 大野市快適環境づくり計画　策定協議会
- ◆ 大野市快適環境づくり計画　推進委員会
- ◆ 策　定　経　過



□　計画づくりの体制

総合的見地から快適環境の形成を図るために、計画づくりの段階から官民の創意工夫を取り入れることを考慮し、右図の体制によって取り組みました。

① 大野市快適環境づくり計画策定協議会
計画内容についての幅広い意見交換や、提言および情報提供・技術指導を行って、本計画を円滑に推進する機関
② 大野市庁内推進委員会
計画内容全般についての総合的な調整を行う機関
③ 事務局
基礎資料の収集、分析および計画案の作成等を行う機関



□ 課題の整理

環境の特性の中で、各要素ごとに今後の方向性を取りまとめるとともに、特に「快適環境づくり」に視点をおいて、課題の整理を行いました。

【課　題】

自然―壮大な自然を守り育て、私たちの心のやすらぎの糧としよう！

- 豊かな自然環境をこの手で守り育てていく
- 豊かな自然環境を多彩に活用していく
- 自然の恵みを生活の中に取り入れていく

歴史―情緒豊かな歴史的資産を守り育て、私たち共有の財産としよう！

- 貴重な歴史的資産をこの手で守り育てていく
- 貴重な歴史的資産を有効に活用していく

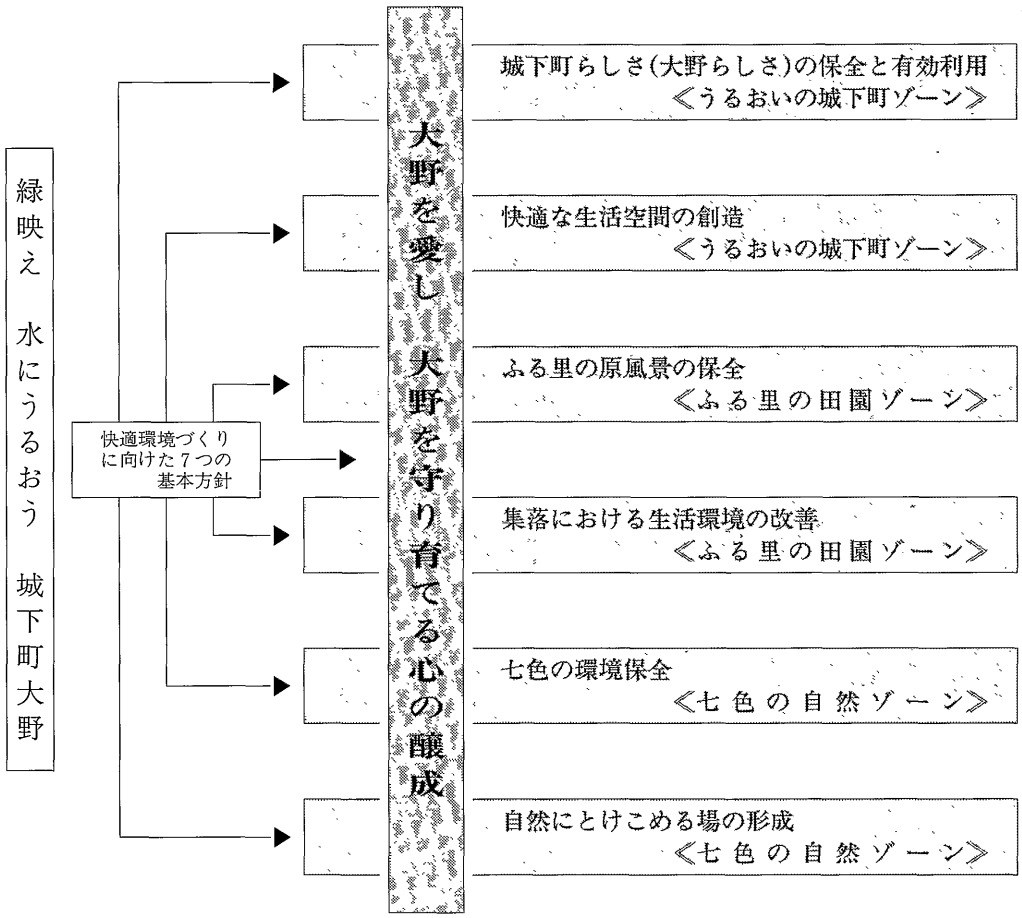
生活―誇りをもって暮らせるまちをつくっていこう！

- 都市基盤施設整備を積極的に進めていく
- 身近な素材をまちづくりに取り入れていく
- 克雪・利雪のまちづくりを行っていく
- 郷土を愛する心を広めていく

□ 計画の理念と方針

計画づくりの基本理念：私たち自身の目で「大野らしさ」と「身近な素材」を見つけ出し、私たちの心と頭でそれらの守り方、育て方を生み出し、市民全員の力で実践していくこと

計　画　テ　ー　マ：緑　映え　水にうるおう　城下町大野

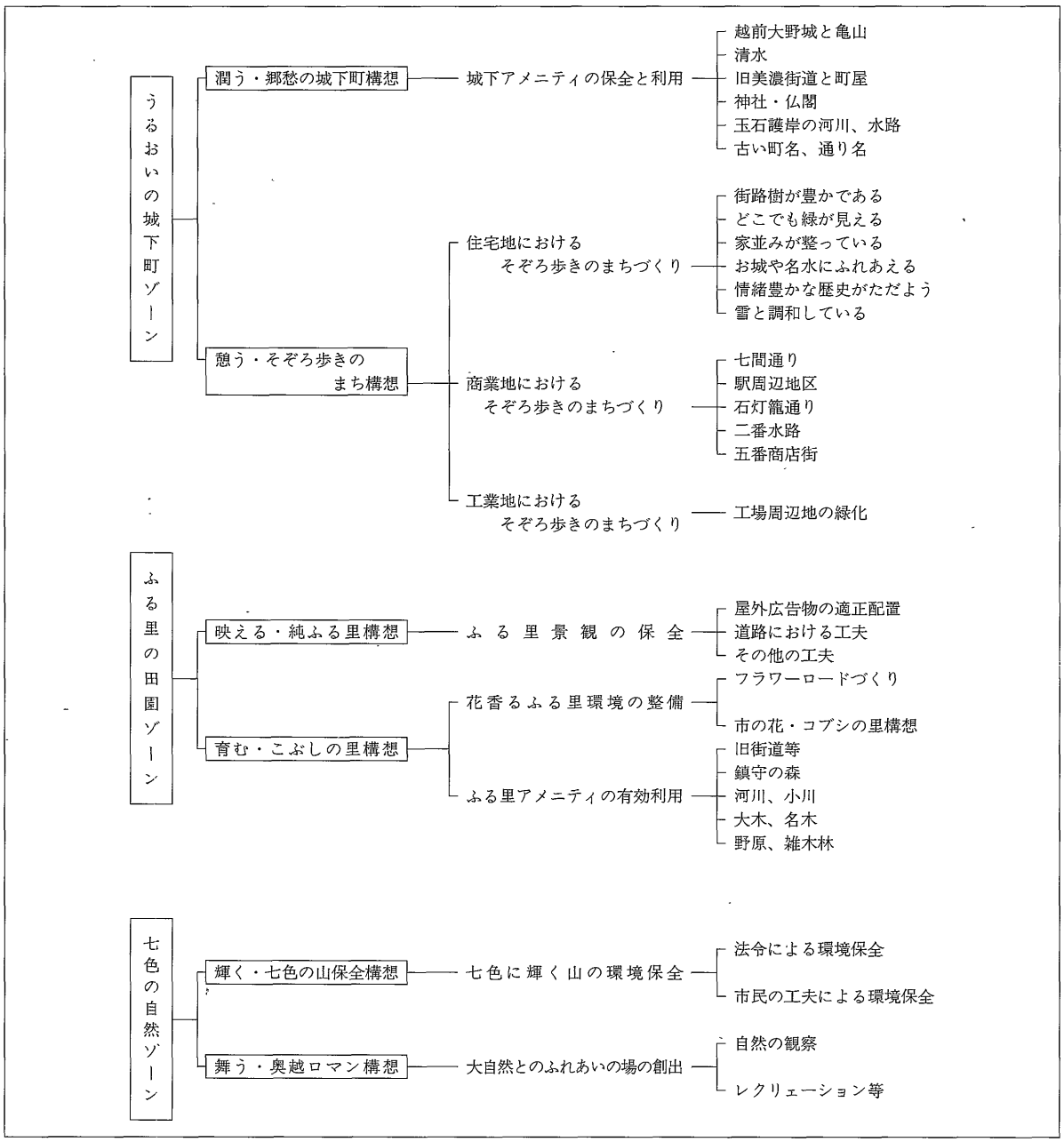


□ 計画の内容

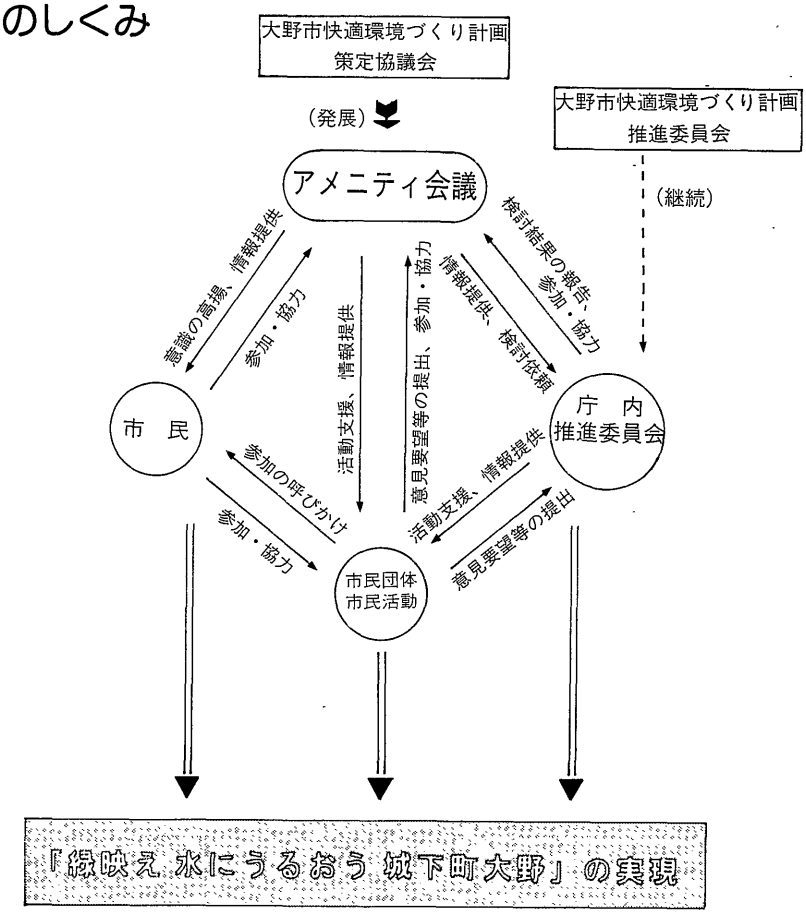
環境特性を踏まえて、

- うるおいの城下町ゾーン
- ふる里の田園ゾーン
- 七色の自然ゾーン

を設定し、各ゾーンごとに快適環境づくり計画を立案しました。



□ 体制と参加のしくみ



□ 事業施策の体系

うるおいの城下町ゾーン

構想	計画事項		行政主体 施設整備等	行政主体 誘導・啓蒙等	住民主体 地域活動等
潤う・郷愁の城下町構想	城下アメニティの保全と利用	越前大野城と亀山	・遊歩道、広場、休憩施設、駐車場の整備 ・散策道路のネットワーク化 ・公共公益施設の配置工夫 ・ライトアップの継続	・都市計画風致公園 ・お城をさえぎる広告物等への指導 ・窓に関する建築指導	・遊歩道沿いの環境美化活動 ・植樹された桜の成育点検活動 ・広告物掲示への配慮 ・窓の位置への配慮
		清　水	・ベンチや水屋の配慮 ・公園・緑地との一体化 ・階段護岸の整備 ・木碑の設置	・地下水保全条例の施行 ・地下水の観測調査	・清掃活動 ・イトヨの保護 ・コイの放流 ・節水意識、敬水意識の普及
		旧美濃街道と町屋	・歴史的建築物の買上げと有効利用 ・一里塚の設置	・保存条例制定の検討 ・伝統的建築物群保存地区の指定の検討 ・補助金制度の検討	・低木類の植栽やフラワーポットの設置 ・ベンチ、水飲場の設置 ・歴史的な景観づくりの取り組み
		神社・仏閣		・保存条例制定の検討	・緑化の推進 ・歴史性への配慮 ・保全に関わる行動ルールの普及活動
		玉石護岸の河川、水路	・玉石護岸や練石護岸の利用の検討 ・階段護岸整備の検討	・保全の検討 ・美化意識の啓蒙	・清掃活動の推進
		古い町名、通り名	・町名由来標示板や旧町名標示板の設置		・名称としての利用促進 ・標柱の設置
		街路樹が豊かである	・宅地側への植樹帯設置の検討	・計画段階における配慮 ・修景工事費１％上乗せシステムの検討	

美浜町アメニティ・タウン計画（平成元年度）

□ 計画の視点

地域環境とはいうまでもなく地域固有のものであり、目標や計画はあくまでも地域の特性に即して設定されるべきものである。このため、本計画の狙いである＜地域の特性を生かすこと＞を基本に、他地域とは一味違う計画づくりを進めることとし、以下の点に留意した計画とする。

計画の留意点
- ・人口１万人クラスのまちである
- ・独立した環境系を有している
- ・全国的にも通用する観光レクリエーション地である
- ・多様な生活が生きづいている
- ・古くからの歴史が生きづいている

□ 計画の目的

1．快適環境づくりの目標づくり
2．快適環境づくりのマスタープランづくり
3．快適環境づくりの推進計画づくり

□ 計画の構成

1．調査の背景と視点
（1）アメニティ・タウン計画の背景
（2）美浜町アメニティ・タウン計画の視点
2．美浜町の環境特性
（1）自然環境上の位置
（2）自然的特性
（3）社会的特性
（4）景観風土の特性
3．意識調査によるアメニティ要素の抽出・評価
（1）意識調査の概要
（2）町全体のアメニティ要素とその評価
（3）アメニティに対する行政および住民の役割
（4）子供たちのアメニティ環境
（5）集落別アメニティの現状とその評価
4．美浜町のアメニティ像
（1）問題点
（2）課題
（3）アメニティ像
（4）基本方針
5．全体計画
（1）アメニティ地帯構成
（2）ランドスケープ区分と整備保全の方向
（3）シンボル・アメニティの維持・形成
6．アメニティプラン
（1）ふるさと風景保全育成プラン
（2）新しい環境形成プラン
（3）環境形成リードプラン
（4）地区環境保全整備プラン
（5）計画推進プラン

□ 美浜町のアメニティに関する問題点と課題

問題点

＜町　全　体＞

・まちの顔がない（印象の薄い町）
・雑然とした沿道環境
・海浜、湖畔の汚れと土地利用の未整備
・演出不足のスポット（三叉路、眺望地等）
・歴史資源の未活用
・多様な生活風土の画一化
・自然景観への配慮に欠けた公共整備
・海、湖、川の環境整備の不足
・生活を楽しむ場の不足

＜身近な環境＞

・社寺等、集落の象徴空間の環境悪化
・伝統行事等の舞台や周辺の環境の未整備
・アメニティに対する住民の認識の不足
・子供が自由に遊べる空間の不足
・美化活動が統括的に実施されていない
・個々の集落の特徴の喪失化
・公共空間の美化の問題（ゴミ等）

課　題

・ふるさとの風景の保全活用
・まちの顔づくり（駅、庁舎、湖畔、海浜等）
・まちのスポットづくりと演出
・既存資源の積極的活用（山、川、海岸、歴史）
・景観に配慮した施設整備
・個性ある生活風景の演出
（漁村、農村、山村、祭り等）
・楽しく住むための環境整備

・集落の象徴空間づくりと演出整備（社寺公共施設周辺、辻、集落ゲート等）
・子供の遊び空間の確保
（自然な遊び場や公園の確保）
・伝統行事の継承と舞台の環境整備
・個性ある集落環境づくり（花、水の活用）
・美化活動の組織的展開
（既存の美化活動の連携等）

□ アメニティ像と基本方針

・アメニティ像

ハートフルパーク美浜
――水と緑を生かした楽しい生活風景の創生――

・基 本 方 針

風景を育む ―
・歴史的環境を守り修復する
・集落景観の保全と修景
・シンボルとなる山の保全
・海岸景観の保全と修景

顔をつくる ―
・美しいまちの顔と軸をつくる
・集落・地区のシンボルづくり
・観光・レクリェーション環境づくり

輪を拡げる ―
・水と緑のネットワーク形成
・歴史をむすぶ
・地区別のアメニティテーマをつくる
・町民参加システムの構築

・地区別整備保全の方向（タイプ分類の考え方）

「保護・保全系」
町を代表する海岸景観や山間の景勝地等が対象であり、自然的環境や景観を守ることが最大のポイントとなるタイプ。

「生活管理系」
市街地・集落地、漁港、田園などの地区で、生産・生活活動の中でアメニティ環境が適切に管理・維持されるべきタイプ。

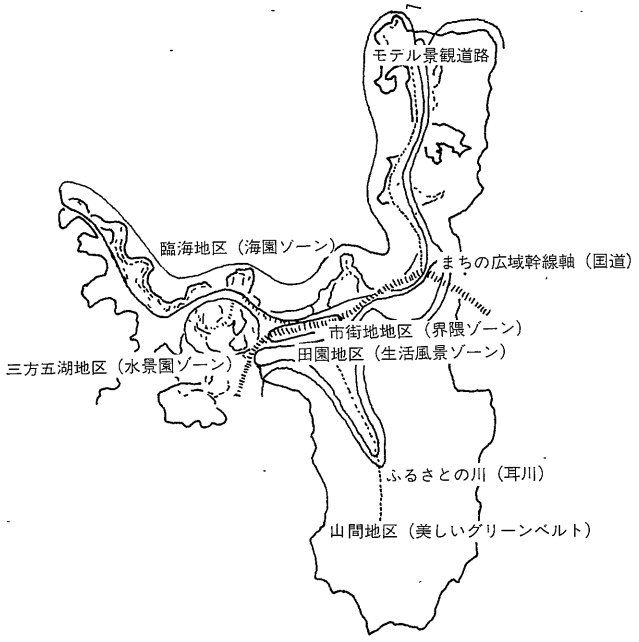
「修景改善系」
まちの景観や環境のポイントとして、ディスアメニティの解消を進め、適切なアメニティ形成を誘導するために必要な対策を講じるタイプ。

「再生・復元系」
既に失われた景観や快適な環境を再び創造することを前提として、必要な対策を講じるタイプ。

「創造系」
新たな市街地として整備が想定されている地区や積極的にまちの顔として演出すべき地区において重点的にアメニティ対策を講じるタイプ。

□ アメニティ地帯構成と計画の方向

区分			位置づけ	計画の方向
地区	臨海地区		海園ゾーン —コースタル・ガーデン—	・自然海岸の保全 ・養浜・護岸修景等の推進 ・背後地の修景整備 ・松並木の連続化
	三方五湖地区		水景園ゾーン	・自然景観の保全 ・湖畔の風景づくり ・湖畔の保養空間づくり （スポーツ・レク、文化芸術、保養） ・水質の改善
	田園地区		生活風景ゾーン	・ひろがりのある田園の保全 ・田園風景づくり ・歴史的風土の保全と活用
	市街地地区		界隈ゾーン	・快適なシビックコアの形成 ・シンボル道路の形成 ・快適な商業業務空間づくり
	山間地区		美しいグリーンベルト	・ふるさとの山づくり ・森林散策の道づくり ・冒険の森づくり ・シンボルの山の保全
軸	主要道路	国道	モデル景観道路 （国道27号）	・沿道修景、サインの徹底 ・並木づくり ・花のスポット整備
		県道	（県道佐田立石敦賀線） （県道日向郷市線）	
	耳川		ふるさとの川	・川辺の道整備 ・せせらぎ水辺環境整備 ・水質の維持・改善



□ 地区環境保全整備

・アメニティ地帯構成をもとに、さらに特色あるランドスケープを構成する地区を抽出し、それぞれの美しいランドスケープづくりに向けて望ましい方向を示す。

丹生地区
＜アメニティ形成のテーマ＞
「漁港の佇まいの維持・形成」
＜アメニティ要素＞
○静穏な丹生の浦の景観（静穏な水面、海岸の松林等）
○小漁船の係留と漁船の音
○水揚げの賑わい
○潮と魚の臭い
○沖合に浮かぶ養殖場
○漁村の佇まい（狭い道路、石垣のある家並み）
＜ディスアメニティ要素＞
殺伐とした漁港道路周辺（道路の埋立て部分と漁村の間）

□ シンボルアメニティの維持・形成

区分		対象
拠点	まちの顔づくり	駅前、新庁舎周辺
	ビスタポイントの整備修景	美浜10ポイントビスタ
	歴史的シンボル拠点の整備修景	国吉城跡、織田神社、竜沢寺
	レクリエーション拠点の整備修景	レインボーライン、渓流の里、和田久々子海岸、佐田海岸
	ふるさと風景モデル拠点	宮代・麻生、久々子湖畔
	ふるさとの四季の山整備	小倉山、天王山、飯切山、岳山
	冒険の森の整備	岳山
	町民ピクニック広場の整備修景	雲谷山山麓高原
道	まちのシンボル道路整備	駅前～新庁舎
	まちの広域幹線軸の修景整備	国道27号沿線
	モデル景観道路の指定と修景整備	主要県道
	海辺の道整備修景	和田久々子海岸、佐田海岸
	山辺の道整備修景	歴史の道（山麓線沿い）
	里の道整備修景	太田周辺
	川辺の道整備修景	耳川
	湖畔の道整備	日向湖、久々子湖
	スカイラインとレールの整備	周辺山地の尾根沿い

□ 計画推進に向けて

・町が進める「美浜町まちづくり推進協議会」等との連携をとりながら、まちづくりの中で本計画を位置づけ、官民が協力しながら快適環境づくりを進める。

町の役割
・シンボル・アメニティづくりの推進
・町民に対する啓蒙普及活動
・土地利用の適切な誘導
・自然にマッチした公共施設整備
・ふるさとの風景の保全対策の充実
・モデルアメニティ事業の推進
・アメニティ情報の町民への提供　等

町民の役割
・地区別アメニティ形成プランの策定と実施
・アメニティ関連行事等への参加
・地区別アメニティ会議の設置運営
・アメニティ情報の町への提供
・アメニティ・モデル事業等の参画実施　等